

# ヌマオロ地区 旧川復元実施計画

北海道開発局 釧路開発建設部

平成30年2月9日

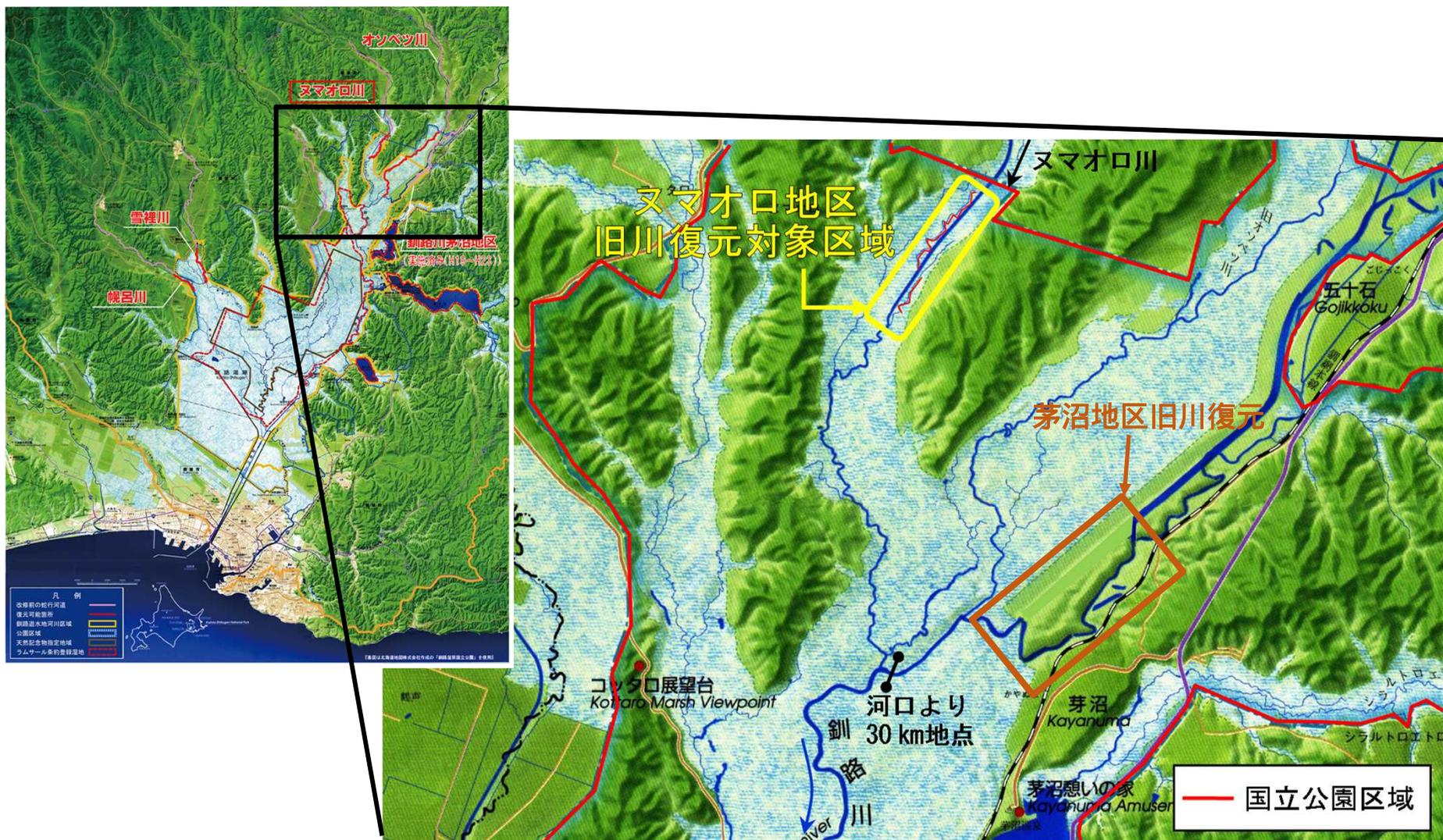
# 目 次

1. 実施主体および対象区域
2. 当該箇所を実施する理由
3. 当該箇所の状況
4. 当該箇所の4つの課題
5. 当該箇所の目標
6. 実施手法
7. 自然環境への配慮事項
8. 期待される効果
  - (1) 湿原中心部への土砂流出の軽減
    - ・ 湿原中心部への土砂流出軽減効果の予測検討
  - (2) 湿原植生の再生
    - ・ 湿原植生の再生効果予測検討（地下水位）
    - ・ 湿原植生の再生効果予測検討（冠水日数）
  - (3) 魚類などの生息環境の復元
    - ・ リファレンスサイトについて
  - (4) 湿原景観の復元
    - ・ 湿原景観の復元効果予測検討
9. モニタリングの実施、順応的管理手法の適用
10. その他自然再生事業の実施に関して必要な事項

# 1. 実施主体および対象区域

(ヌマオロ地区旧川復元実施計画より)

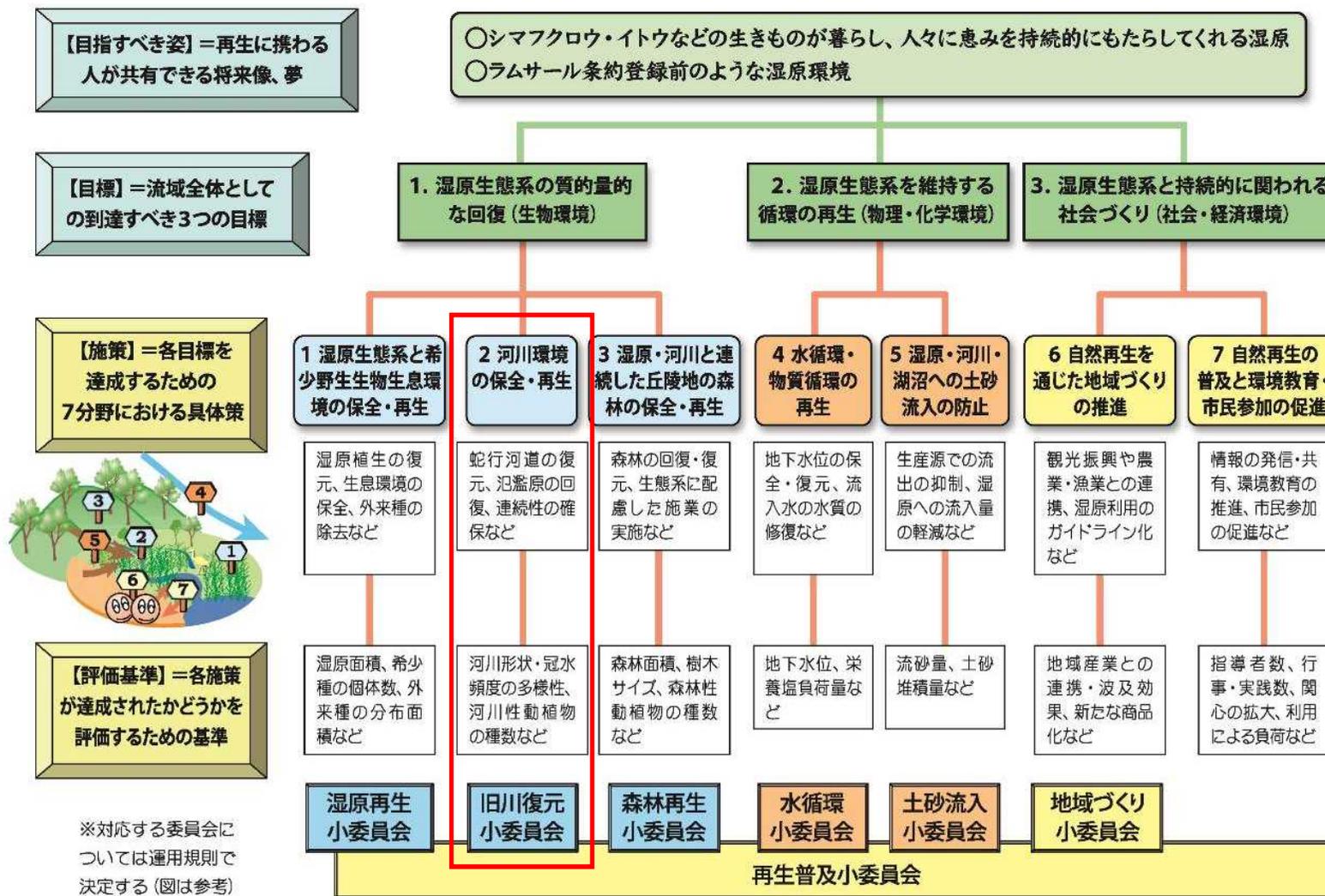
- ・ 本事業は、釧路湿原自然再生協議会に属する国土交通省北海道開発局釧路開発建設部が実施する。
- ・ ヌマオロ地区旧川復元事業の対象区域は釧路川河口から30km付近で釧路川本川に合流している標茶町のヌマオロ川湿原流入部である。



# 1. 実施主体および対象区域

(ヌマオロ地区旧川復元実施計画より)

- 全体構想に対する旧川復元事業に位置付けは、目標の「1. 湿原生態系の質的・量的な回復」に該当し、施策の「2. 河川環境の保全・再生」の具体策の一つである。



全体構想と旧川復元事業の関係 (出典: 釧路湿原自然再生全体構想 (2015年 (平成27年) 3月改定) より)

## 2. 当該箇所を実施する理由

(ヌマオロ地区旧川復元実施計画より)

ヌマオロ川は単位面積当たりの土砂流出量が最も多く、旧川復元による湿原中心部への土砂流出の軽減効果が大きいと期待されること。

1947年（昭和22年）から2013年（平成25年）にかけて、ヌマオロ地区のヨシ群落<sup>かやぬま</sup>が約8割減少し、ハンノキ群落へと変容しており、湿原植生の変化が顕著で旧川復元による植生回復効果も期待されること。

旧川復元対象河川（釧路湿原の河川環境保全に関する提言H13.3）のうち、釧路川茅沼地区を除く、幌呂川、雪裡川、オソベツ川、ヌマオロ川を比較すると、ヨシ群落の減少割合がヌマオロ川が最も大きい。

旧川復元箇所の周辺に民有地や農家がなく、社会的影響が少ないと考えられること。

を総合的に判断してヌマオロ川を旧川復元河川に選定した。

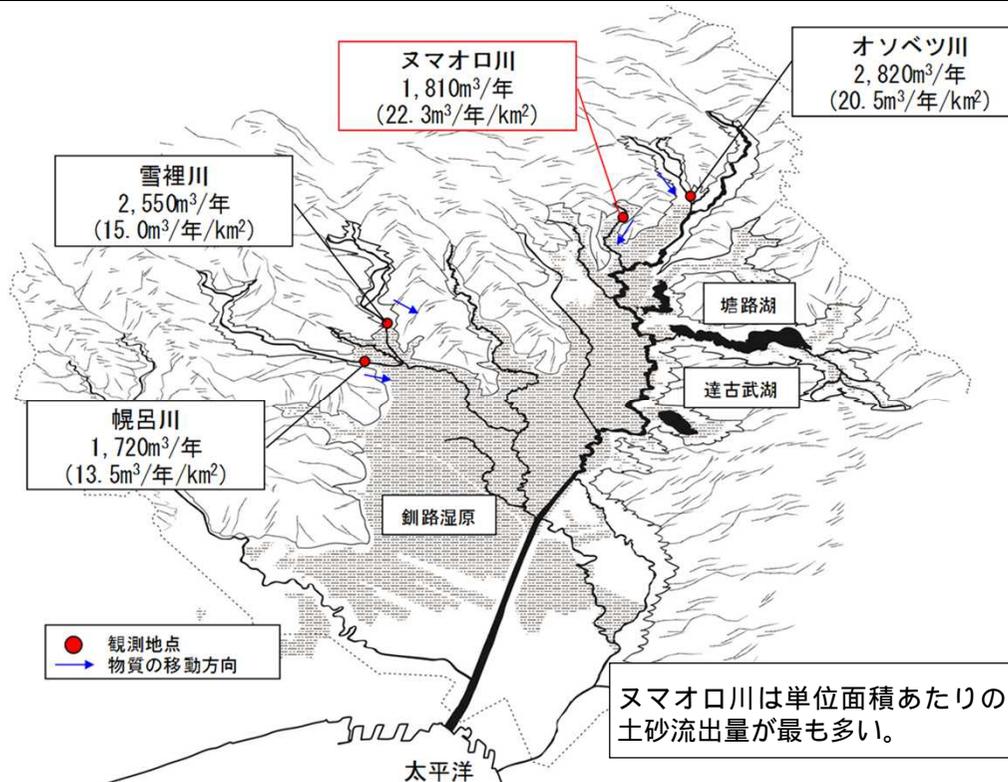


図-1 湿原中心部への土砂流出量  
(1990年（平成2年）～2012年（平成24年）の平均値）

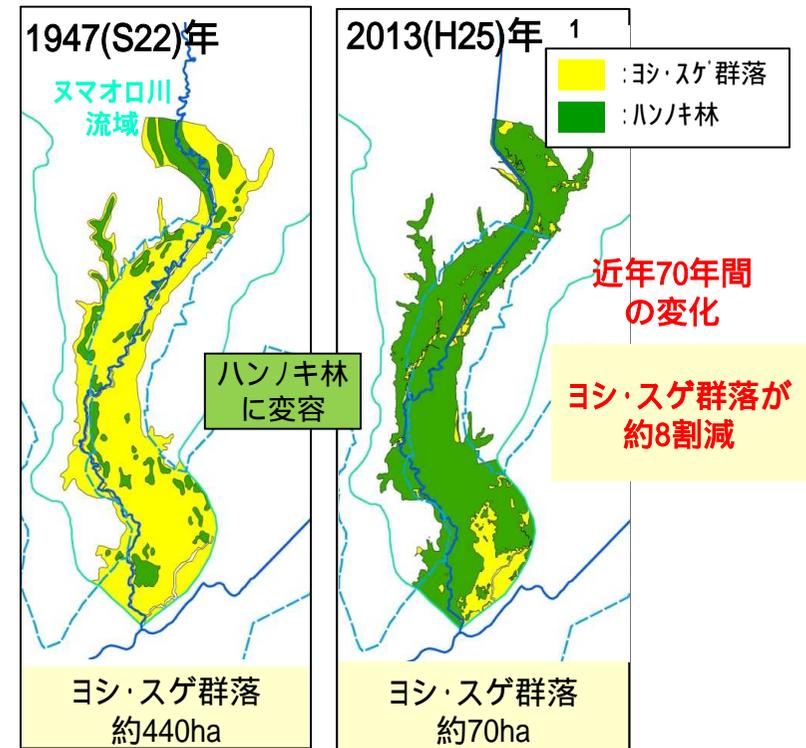


図-2 ヌマオロ地区の植生の変遷  
(1990年（平成2年）～2012年（平成24年）の平均値）